

大牟田市 在宅医療・介護連携ビジョン 2024~2029

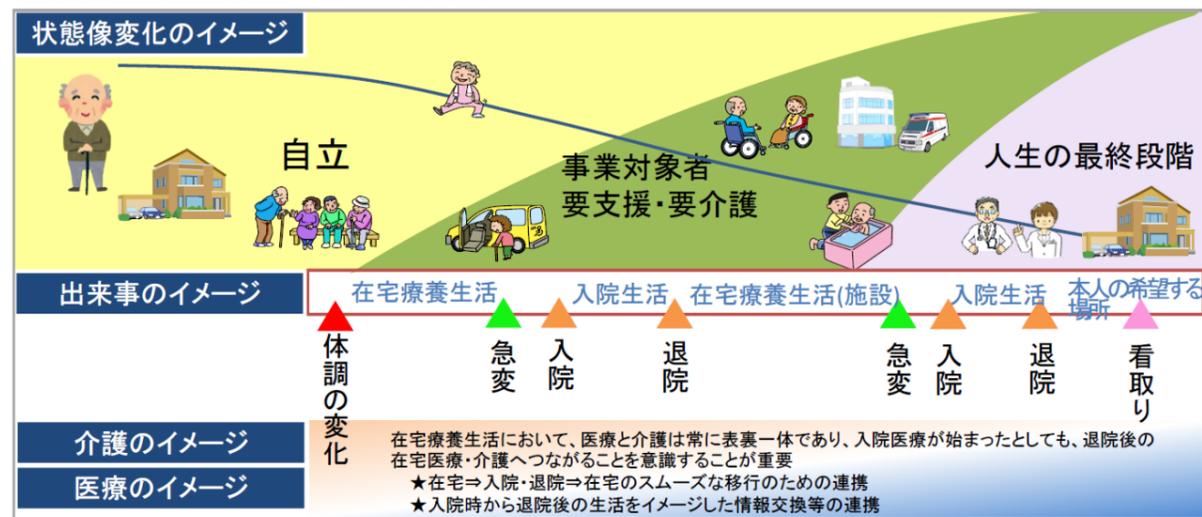
大牟田市では、健康的で住み慣れた地域で暮らし続ける社会の実現のため、誰もが持てる力を生かせるまちづくりと、地域の多様な担い手による支援づくりに取り組んでいます。特に、地域で切れ目ない在宅医療と介護の提供体制を構築するため、市内の在宅医療・介護連携に関連する各団体との協力のもと「大牟田市在宅医療・介護連携ビジョン」を策定しています。ビジョンを共有する全ての専門職や関係機関、さらに市民の参加により、実現に向かいます。

ビジョンのポイント

- 国の施策に従って、高齢期の状態像の変化を4つの場面に整理し、場面ごとに市民・専門職の「あるべき姿」を整理しました。
- 医療・介護の専門職へのヒアリングを元に、「あるべき姿」を描き、あるべき姿の実現に必要な医療・介護の役割を整理しました。
- 今後、必要な取組については、市や関係機関・団体と連携して考え、具体的に企画化し推進していきます。

在宅医療・介護連携が必要な4場面

高齢者の状態像の変化と出来事のイメージ



医療・介護連携の4場面

- ① 日常の療養支援
- ② 入退院支援
- ③ 急変時の対応
- ④ 看取り

(資料)厚生労働省老健局老人保健課(令和2年9月)「在宅医療・介護連携推進事業の手引きver.3」より追記

4場面における「あるべき姿」

場面①: 日常の療養支援

- 【あるべき姿】
- (市民) 健康でいられる期間を長く、本人や家族が「よかった」と思える
 - (専門職) 様々な専門職が、職種の違いなど関係なく語り合える、垣根のない関係

場面②: 入退院支援

- 【あるべき姿】
- (市民) 医療・介護ケアが必要な場面で、本人が日常生活の過ごし方を選択できる
 - (専門職) 必要なケアに応じた体制が構築されている

場面③: 急変時の対応

- 【あるべき姿】
- (市民) 医療・介護ケアが必要であっても、日常生活の過ごし方を選べる
 - (専門職) 退院直後の生活が混乱しやすい時期の切れ目のない連携・支援、在宅での日常生活を支える提案ができる

場面④: 看取り

- 【あるべき姿】
- (市民) 自分の最期の過ごし方を選べる
 - (専門職) 市民が自分の最期に本人や家族が「よかった」と思える選択に寄り添う

取組のイメージ

本人の意思決定支援に関する啓発

在宅医療に関する市民向けの情報発信

住み慣れた地域で暮らし続けることを支えるための社会資源・地域資源の共有

施設等での医療的ケアへの対応力向上に向けた取組

単独世帯高齢者の増加への対応に関する取組

専門職の事例検討会、研修会

人手不足・業務効率化への対応

- ◆ 本ビジョンは、6年間(令和6(2024)年度)~令和11(2029)年度)を実施期間とします。
- ◆ ビジョンの実施期間にあるべき姿に近づいているのかを確認するため、関係団体で構成された協議会・企画実行委員会を通じたPDCAサイクルを実施していきます。

*ビジョン全体像は、大牟田市のサイトで公開しています

大牟田市在宅医療・介護連携推進協議会
(事務局:大牟田市保健福祉部福祉課)

大牟田医師会 大牟田歯科医師会 大牟田薬剤師会 大牟田市介護サービス事業者協議会 大牟田市介護支援専門員連絡協議会
大牟田・高田地域訪問看護ステーション連絡協議会 福岡県理学療法士会 福岡県作業療法協会 帝京大学 福岡キャンパス 福岡県医療ソーシャルワーカー協会